

# 油絵の画材と道具

熊谷美術研究所クマビ

1. キャンバス
2. パレット
3. 画溶液
4. 筆
5. 油絵の具
6. スケッチブック
7. 筆洗器
8. 筆洗油
9. パレットナイフ
10. ペインティングナイフ
11. 油壺



## <道具の解説>

- 1 「キャンバス」  
キャンバスには色々な大きさと形があります。キャンバスの大きさは0号から、大きいものは300号以上という巨大なものまであります。0号は葉書よりもひとまわり大きなサイズ。0号は小さいので描き難いため最初はおすすめしません。受験生は最初は10号をお勧めします。特に使うのは15号です。
- 2 「パレット」  
パレットは、一般的に合板で作られたものと紙でできた使い捨てのものが使われています。こだわり派の方は、合板でできたパレットをおすすめします。使うたびにオイルで拭きあげれば独特の艶を楽しめます。教室に通われる場合は、後片付けの時間が短いので、使い捨ての「紙パレット」が便利です。描き終わったら剥がしてゴミ箱に捨てるだけでよい便利な道具です。
- 3 「画溶液」  
画溶液は、大きく2種類あります。揮発製油と乾性油です。揮発製油は、テレピンをおすすめします。テレピンは下描きの時に使うオイルですぐに揮発する便利なオイルです。それに対して乾性油は仕上げ用のオイルです。油絵の具の中に糊の役割を果たすために混ぜられているのがこの「乾性油」です。乾性油は、ペインティングオイルという複数のオイルが調合されたものか、もしくはリンシードというオイルを使うことをお勧めします。
- 4 「筆」  
筆には色々な大きさと形があります。最初に買うのはフィルバードという丸平筆がお勧めです。フィルバードを小さい00号程度のものから20号程度のものまで10本程度揃えることをお勧めします。
- 5 「油絵の具」  
安いもので1本300円程度のものから、高いものは1本数千円もする高級なものまであります。値段の違いは、絵の具の中に含まれる顔料とその割合の違いです。最初は、安いもので十分です。絵の具メーカー各社で絵の具のチューブにアルファベットでランキングが表記されています。最初はそのランキングの中で一番安いものを選ぶようにして、予算の中であるべくたくさん色を購入されることをお勧めします。最初は12色程度と白は大きめのチューブで購入することをお勧めします。
- 6 「スケッチブック」  
描き始めのイメージを考える時に使います。紙の大きさと厚さで値段が変わります。油絵のイメージを考えるために使うスケッチブックは、持ち運びしやすい大きさの薄い紙の一番安価なものをお勧めします。
- 7 「筆洗器」  
筆を洗う時に使います。筆洗器には屋内用と屋外用の2種類あります。屋外用は、小さいプラスチック製の容器で、しっかりと口を密閉できるキャップがついています。屋内用は、大きい金属製の容器で、筆を洗しやすい様々な加工が施されています。
- 8 「筆洗油」  
筆を洗うためのオイルです。筆を洗う時は、筆洗油でしっかりと絵の具を洗い流してから、毛についた油分を布で拭き取り最後に石鹸でしっかりと洗います。油絵の具が付いた筆は必ずその日に石鹸で綺麗に洗ってください。
- 9 「パレットナイフ」  
パレットの上で絵の具を混ぜる時に使う道具です。最初は、絵の基本を知る上で購入することをお勧めしますがどうしてもなくてはならない道具というわけではありません。
- 10 「ペインティングナイフ」  
絵の具を混ぜる時、下地を作る時、描く時、絵の具を削り取る時など幅広い用途で使います。最初は小さいものから大きなものまで5本程度揃えることをお勧めします。
- 11 「油壺」  
オイルを入れる容器です。パレットナイフと同じく、なければならぬものではありません。油壺は大きな筆が壺に入らないという難点があります。教室では、使いやすい小さめのお皿を2枚程度持ってきて頂いて、それをオイルを入れる容器として使っています。

## 「その他に必要なもの」

タオル、ティッシュ、新聞紙、鉛筆、サン用具、カメラ（記録用）